



ハタラクヒト

* ペディア21

< 篠田佳宗 氏 >

田中永子

はじめに

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだらうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。

行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第21回は、『特定非営利活動法人くるくる』理事長の篠田佳宗さんです。

当団体のスローガンは、『明日を切り拓くチカラ。』

くるくるは、誰もが自分らしく暮らせる「明日」の社会と、利用者の方々の明るい「明日」を見つめ、

その実現のため既存の常識にとらわれることなく日々「変革」に挑み、よりよい未来を切り拓きます。

篠田佳宗氏



趣味は、ゴルフ、サッカー、茶道

好きな本は、司馬遼太郎 「竜馬がゆく」

好きな音楽は、ミスチル、ゆず、コブクロ

HPは <http://www.kurux2.org/>

連絡先

専用フリーダイヤルは、 0120-196960

専用メールアドレスは、 riyou@kurux2.org

◆迷走と妄想の果てに『くるくる』を立ち上げた

篠田佳宗さん（以下敬称略：篠田）： 神谷さん（神谷昌宏さん）のところで、原稿を見せてもらって。膨大な量だなんて。

田中永子（以下：田中）： はい。文字起こしも結構大変なんですー（笑） 『くるくる』さんを立ち上げの時から、神谷さんと？

篠田： うん。

田中： 着古したよれよれのTシャツとGパンでいらして、会った時、大丈夫かって思ったって（笑）

篠田： それ、ぼくじゃないです。

田中： え？ 違うんですか？

篠田： 一緒に立ち上げた代表がいるんで。

田中： その方がそういう出で立ちでいらしたんだ。

篠田： 創業は、その人が代表になって。

田中： ブログを書いているらっしゃる方？

篠田： そうそう。代表で法人の定款もその人が書いている。NPOは高い理念を持って立ち上げる。一般の企業もそうなんですけど、NPO法が出来て行政がやれないことを、民間が担っていけるという突破口で、NPOを立ち上げてやり始めた。

NPOは理念・ミッションが大事で。その理念を立ち上げた人が代表。トップというのが、ちょっと苦手な人で（笑）

田中： 私の知り合いの方もNPOを立ち上げてて。インタビューにも出て下さってる、毛受さん。知り合いが開催した交流会で知り合って。

篠田： おもしろいですよね。いろんな人とつながって。多種多様な人が集まって。

田中： ええ、ほんとに。で、まず『くるくる』さんというNPOで、どうしてその活動をしていこうと思ったのかっていうところから聞いてみたい。

篠田： ふふふっ。ぼくは元々、刈谷の『（前）刈谷市福祉事業団』現在の「社会福祉協議会』にいて。

田中： うんうん。

篠田： で、『くるくる』が今10年目で、ぼくが福祉に関わったところが社会福祉協議会で。

田中： それって、市の職員さんだったの？

篠田： じゃ、ないです。従業員はその専属のプロパーで雇われてる人と、市から出向で来てる人と分かれてて。元々は障害者福祉って民間が参入するのにしびりがあったんですよ。社会福祉法人だったり、行政が担っている福祉サービスじゃないと受けられないとか。昔はそういう『措置』と言われる時代で。

田中： 措置？

篠田： 障害者として生まれました。「じゃあ、あなたの保育園は○。小学校は△。中学・高校を卒業したら、作業所はここですよ」って、もうそれはルールが決まってて、そういうふうに行政が決めてて。選択権が少なかったんだね、昔は。措置制度。

田中： たしかに、決まってる感じがしますね。

篠田： うん。刈谷だと『すぎな作業所』とか歴史がある。

田中： ずいぶん前ですけど、私の同級生がその職員で働いてました。

篠田： そうですか（笑）10年ぐらい前ですか？ 10年前だったら、ぼくもそこにいました。

田中： 10年以上前かも。そちらに行かれる、なにかきっかけってあったんですか？

篠田： 元々経済学部の大学で、まったく福祉で働くつもりはなかったんですけど。

田中： ええ。

篠田： うちの母親からは、昔から「福祉の仕事、いいんじゃない？」ってずっと言われ続けてて。

田中： お母さまに？

篠田： っていうのも、同級生の友達の妹さんが脳性まひのお子さんで、身近にそういう人がいたっていうのもあると思うんだけど。ぼく、元々すごく病弱だったんです。

田中： ほんと？ 今サッカーされてるのにね（笑）

篠田： 小児ぜんそくもあって、風邪もよくひいてたし、よくわかんない原因不明の病気にもなったりして。

田中： じゃあ、結構よく入退院とかもされてたの？

篠田： ええ。

田中： へええ。

篠田： まともに成長できないんじゃないかって、母親は心配してて（笑）

田中： そうねえ。

篠田： で、人の役に立つ仕事っていうことで、福祉だったりとか、掃除をする仕事だったり、そういう仕事に就ければいいんじゃないって（笑）

田中： そういうお母さまの影響もあって。

篠田： うん。ぼくは全然そのつもりなかったんですけど。福井県立大学行ってて、4年間一人暮らしで住み心地いいんで、そっちで就職しようと思ってたんです。

田中： うん。

篠田： 就職しようとしても、不景気だったので営業職しかなくて。営業って、なんか嫌だったんです（笑）

田中： ふふふふ。

篠田： 自分が売りたいものじゃないかもしれない、ノルマもあるだろうし……とか考えると。で、まったくしなかったんです。

田中： えっと、就職活動を？

篠田： そう、就職活動を。周りはしてたんですけど、ぼくはまったくしなかった。

田中： おもしろいなあ。

篠田： 今でいうモラトリアム期間（笑） で、なんにもやらないのもあれなんで、大学院行って。大学卒業してから勉強し始めて、それもそのまま経済にするか、それとも違う勉強しようかって悩みながら（笑）

田中： 笑

篠田： 大学院いくのに英語の受験もあって、河合塾に通って。でも結局、なにがやりたいかっていうと、なんもなくて。

田中： あはははは。迷走してた（笑）

篠田： ふふふふ。迷走、迷走（笑） で、結構時間はあるんで、アルバイトはしてて。土日は障害者のスポーツ、障害者スポーツのボランティアをやろうかなって思って。

田中： へえ。

篠田： たまたま目に入った障害者スポーツのインストラクター。ちょうどその資格が出来始めた頃で、無料で受けられるって。『スペシャルオリンピック』とか『パラリンピック』とかが、まだそんなに有名じゃなくて、インストラクターを育てて組織的にして行こうっていう頃だった。

田中： さきがけみたいな。

篠田： そうそう。初級を受けて、中級、上級、スペシャル？……その上があって、そこまで行くとオリンピックについて行けるとか。自分もサッカーやってたんで、日本代表コーチになれるかもしれないって（笑）

田中： うん。野望ね（笑）

篠田： そういう妄想がはじまって（笑） まず初級を受けて。その条件が、地域でやってる障害者競技のスタジアムでの設営のお手伝いをする。それを何回かすると中級になれる。やってるうちに刈谷の福祉事業団の係長に出会って「アルバイト募集してる。一度遊びにおいで」って言われて。刈谷市の福祉事業団は、アルバイトの時給もよかったんで。

田中： うん。

篠田： すぎな作業所の横にある『くすのき園』……。就労が出来ない重度の障害を持ってる人のところで、「ここに来てほしい」って言われて遊びに行ったら、ほんと遊んでるだけの感じで。「遊んでこの時給だったらいいな」ってことで、やってみますっていうのが、福祉のきっかけ。

田中： へええ。

篠田： だから、結構、人の為にとかそう思ってやってたわけじゃなくて（笑）

田中： あー、いい。いい。みんなのために！ とか、あんまり熱く語られると、頭に「？」のタイプなんで。ナチュラルでいいです（笑）

・・・・・・・・ つづく ^^

◆嘔むということも頼られているなど自覚させられる表現のひとつ

篠田： 重度の方だと、てんかん発作とか薬の副作用で、結構よだれとか多かったりして。すごい嫌だなって思って。汚くて嫌だ……みたいな。服についただけで「わー」ってなって。口に出して言わなかったけど、すぐ手を洗いに行ったりとか。

田中： そうねえ。でも、続けられたんだよね。

篠田： うん、そうなんです。たぶんね、母親の影響が結構強いんで。母親からは、弱い自分だけど「これっていう道が決まったら、男だったらそこで一旗揚げろ」って言われてたのもあって。いろいろな企業だとそれは難しいけど、福祉っていうのはライバル関係もないし。福祉の限られた範囲だったら、一旗あげられるんじゃないかなって（笑）ここだったらやれるんじゃないかなっていう、変な自信があって関わりはじめた。で、そこから『社会福祉士』っていう国家資格を取って。

田中： なんか、いいね。生々しくて（笑）

篠田： んふふふ。

田中： リアルでいい感じ。最初はそうやって、よだれがついて「えええー」って言いながら、どうやって乗り越えていったの、それは？

篠田： ひとつはね、理由がわかったのは大きいかな。薬の副作用でよだれがでてしまうっていう。

田中： ああ。その人には、どうしようもないってことが。

篠田： そうそう。どうしようもない。その人が意図してるものじゃないので、仕方がないよなって。

田中： それを思った時に、受け入れることが出来たの？

篠田： すぐには受け入れられなかったね。うん。

田中： なんかそのハードルって、結構大きい気がするの。

篠田： 大きいなあ。そうだなあ……なんだろうなあ。慣れかな。慣れてく過程にいろいろあっ

たと思うんだけど。今じゃ全然気にならないけど。

田中： うん。

篠田： パニックになると、噛んで来る人だったり。知的障害でしゃべれなかったりする人が多いんで、そうやって、人と人、言いたいことが言葉なしで伝わり合う感じが、すごく嬉しいっていうか。そこはやりがいがある。なんとも言えないよろこびですかね。

噛んでくるタイミングで、「ここで怒ってるな」っていうのがわかるし。これやると、怒っちゃうっていうのもわかるし、そういったのもわかってるけど、ちょっと遊んで怒らせてしまったりとか（笑）

田中： ふふふ。

篠田： で、それで噛まれるのも、ちょっと快感……みたいな（笑）

田中： M気が（笑）

篠田： 彼らも相手構わず噛むんじゃなくて、受け入れてくれる人に対してだけ伝えてくれるんで。

田中： 受け入れてくれる人に対して、噛むの？

篠田： 自分の気持ちを受けとめてくれる人に。怒ってるって言葉では言えないんだけど、その怒ってるって表現を噛むことでしか出来ないんで。

田中： その意思表示も、誰かれ構わずっていうわけじゃないのね。

篠田： じゃない。

田中： 汲み取ってくれる人に対して、意思表示として。汲み取ってくれない人にはそれすらしない？

篠田： しない。パニックになって周りが見えないこともあるけど。近くに受け入れてくれる人がいれば、コミュニケーションのひとつとして噛む。噛まれるってことは嫌なんだけど、表現してくれてる、頼られてるってことを意味してて。嫌だけど、うれしい。ふふふ。

田中： 失礼な表現かもしれないけど、うちねこ飼ってて。前の飼い主さんに虐待を受けてて、最初は本当に全然寄って来てもくれなくてね。でも、だんだんその子が、そばに来てくれるようになったり、怒ってる表情を見せてくれた時は超うれしくて。失礼だけど、なんか、それに近いような。

篠田： いや、人も近いと思う。

田中： 今、その子がお腹を出してすごい無防備な格好で寝てたりするのを見ると、この子は今安心してここにいるんだなっていうのがわかるから、それ見て和むの。ほんと、喩えはよくないんですけど。

篠田： そういう感覚と近いかもね。

田中： 言葉が通じない相手とのつながりというか。それって、一朝一夕に築けるものではないし。

篠田： そうだね。

田中： だんだんにそれが積み重なって行った感じがします。

篠田： やっぱり汚いとか思っちゃうと、そこで壁が出来ちゃうんで。それがね、素直な気持ちで。毛嫌いしちゃうとその人のことが嫌いになっちゃうんで、そこは我慢してその人の本質を見る。すると、だんだん好きになってくる。そうになると、汚いっていうのもだんだん薄らいでくるし。その人と会話できるよろこびが勝ってくると、よだれなんか大したことじゃなくなってくる。

田中： うん。子供とか、赤ちゃんがどれだけよだれ垂らしてても、気にならないもんね。

篠田： そうですよ。拭いてあげればいいだけだし。

田中： そこでのバイトが、結構大きかったですね。

篠田： バイトで1年間やったのが大きい。そこで奥さんとも出会ったし。

田中： そう！ とてもかわいらしい方で。

篠田： 先輩でした（笑）

田中： じゃあ、ご結婚されてから、くるくるさんを立ち上げられたの？

篠田： そうそうそう。立ち上げと同じぐらいに結婚して。

田中： くるくるさん創立＝ご結婚何周年という。

..... つづく ^^

◆レスパイトサービスをみて、これだと思った

篠田： 一緒なんです。奥さんが働いていたところは『通所』といって、家族の元から通っている。日本の福祉は、介護もそうなんですけど、基本ベースは家族なんです。「家族がみられなかったら福祉サービスを使いましょう」というのが、原則。障害者は通所。で、みられなくなったら入所施設というのに移っていく。家族から離れて24時間365日暮らせる施設に。

田中： うん。

篠田： うちの奥さんは、始めは入所施設で働いてて、こっちの通所にかわってきて。入所施設は必要な場所なんだけど、そこしか選択がない。親は年寄りになって行くけど、子供は元気になっていくんで、どうしてもそういうところにかわらざるを得ない。そういうところは50~100人位の定員の施設で、施設の中でずーっと暮らす。職員がすべて見ないといけないのでおのずと管理的になっていく。

田中： うちも姑が認知症で施設にお世話になったんだけど、グループホームの時に徘徊がひどくなった時に、見きれないから出てくれって言われて。やっぱり限られた数の職員さんの負担が大きくなるとみられなくなるとか、そういうのってあるんだらうなって。

篠田： そうだね。それに高齢者と違って、若いからね。高齢者はターミナルケアとか、どれだけ幸せな状態でこの世を終えてもらうかっていうところだけど、障害者の方は30歳、40歳とか若くて働き盛りという時に入所してフラストレーションがたまる。その欲求不満を満たすのに、職員さんに暴力をふるったり、いたずらしてみたりとか、自閉症の人がこだわりを持ちちゃって同じことをずっとやってたり。満たされない気持ちをどう満たしていくのかっていうのが、そこに入った彼らの日々の生活の生きがい探しになっちゃう。結局、悪さをして職員たちを困らせるのがよろこびになっちゃう。それで生活習慣も悪くなっちゃう。

田中： それをいかに違うところに向けてもらうのかっていうのが、すごく大事な部分ですね。

篠田： そう！ ぼくは通所施設しか知らなくて。事業団の係長さんは刈谷市から出向した人で、ぼくはアルバイトでやって大学卒業して1年経ってて、「まだ刈谷市の市役所の試験が受けられるから、受けてみなよ」と勧められて、二次面接まで行ったんだけど。

その頃、奥さんとパートのおばちゃんと仲良し3人組でお話ししてた時に「行政に入っちゃうよりもいろんな福祉を見た方がいいよ」となって。ぼく入所施設とかも全然知らなかったんで、行政に行くのをやめて、入所施設を何か所か見て回った。

田中： うんうん。

篠田： 通ってきてた利用者さんで、親が介護できなくて入所施設にかわっていった人が2人ほどいたんですけど。元々足の悪い方で、入所施設に入ったら、リハビリも出来なくなっちゃって歩く力が弱くなっちゃって。

当時は、通所施設だと13人ぐらい通って来てて、スタッフが6人ぐらいでサポートしてたけど、入所施設は50人だと、職員が10人ぐらいしかいないので。日中はもうちょっと増えると思うんですけど、そんな状態で。いろいろ見学もしたけど、やっぱり仕組み的に難しいんだらうなって。制度的に限界だらうと。

地域生活がやっぱり大事だということ、その頃は半田市でやってるNPO法人『ふわり』さんの代表の人の話を聞いて、行政のサービスがまだ整っていない時代に、『レスパイトサービス』……親の休息のお預かりを、親御さんとの契約のもとで預かりますよ、というのを立ち上げてやっていた。

田中： うんうん。

篠田： 元々レスパイトサービスっていうのは、全国的に見ると古くからやってるところもあるけど、半田でやり始めて3年かな。入所施設をまわった後にそっちに。そこでは、子供のうちから預けて、親、家族以外の人との接点を持つように。地元の大学生がアルバイトで子供たちと接点をもったり、親もうれしいし、本人はのびのび遊べる、そういうのをやり始めてて。ぼくは、これだ！ って思ってた。

田中： うん。

篠田： で、半田の方に刈谷からかわって。その頃に、地域福祉へ制度も変わってね「地域でその人らしく生きていきましょう」というのに、日本の福祉も変わって行った。日本はだいぶ立ち遅れてるの。世界とかスウェーデンとかは地域ぐるみでみる。

田中： うん。日本だと、障害があると、とても特別な感じがしてる。

篠田： そうだよな。

田中： 外国って、そういうものを易々とクリアしてるというか。すごく自然な感じがして。障害を持ってる人も周りの人も過剰な反応がないというか。わけ隔てのない感じが。

篠田： うんうん。そうだね。元々障害のあるなしで分けるのも。

田中： うん。少し変わってきたような。

篠田： 分けるというところから、統合しようと。これ教育の考え方なんだけど、一回分けるそこから一緒にしたんだけど、発達段階が全然違うから。今は「発達にあわせた教育と、一緒に出来る活動、運動会とか一緒に出来るところは一緒に交流を持ちましょう」というのに。今の流れだね。

田中： うん。フレキシブルな、柔軟な感じで。

篠田： そうそうそう。福祉も地域の中で、みて行けるように……っていうので初めて支援費制度が施行された時にホームヘルプっていうのができた。

田中： へえ。それまでなかったの？

篠田： なかった。施設に来て下さいねっていうのしか。それが出来たのが、10年ぐらい前。

田中： じゃあ、まだ出来て日が浅い？

篠田： 浅い。で、家族へ訪問するサービスというのが始まった。知的障害の方へ、移動支援、映画を観に行きたい、カラオケに行きたいとか、親じゃないと出来ないものを、「ヘルパーとお出かけできますよ」と。それを普及させていくために取ったのが、NPO法人格。これを持つてる事業所は参入できる。

田中： それを持っていて、初めて参入できる？

篠田： うん。そこで初めて民間事業所を活用しようと。

田中： たしかに行政だけだと、手が回らないもんね。

篠田： そういう条件が整って、支援費制度が変わって『ふわり』の方で勉強させてもらってから、刈谷に戻ってきた。福祉経験としては刈谷で1年間やって、半田の方で1年半やってきて、また刈谷に戻ってきて、今。

田中： なんか最短で来てる感じがする（笑）

篠田： そうそうそう（笑） その制度が出来て参入できるようになった時に、結構そこら中でね、事業所を立ち上げたんだわ、思いがある人達と。

田中： それまで出来なかったことが、そこで出来た。

篠田： そう。その時に、Tシャツよれよれのロッカーな代表と会った。代表は違うところで働いていて。ぼくは半田だったんだけど、東浦の方に。そこは施設をいっぱい持ってて。施設部門と地域福祉部門があって、地域福祉部門のグループホームを担当していて。代表はロックやってて、施設に行って「生のバンドを聴かせたい」って、ボランティアで福祉祭があると施設に行き行って演奏してた。

田中： へええ。

篠田： で、刈谷はだいぶ地域福祉が立ち遅れてて。半田はまだ制度が出来てないけどレスパイトを立ち上げて、お預かりして……という流れの風土があった。刈谷はまったくなかった。で、「立ち上げるんなら刈谷にしよう」って。そこで初めて、その時刈谷の育成会の、その頃の会長さんに間を取り持ってもらって、お会いした。

田中： 篠田さんはその方を知ってらしたの？

篠田： 知らなかった。育成会の会長さんは、ぼくが事業団にいた時に、お子さんが高等部を卒業して入ってきた。すごく仲良くさせてもらって。半田とかいろいろ関わって刈谷で立ち上げることになって、「会ってみる？」って。

田中： 代表の方が刈谷で立ち上げようとされていたところに、引き合わせてくれた。

篠田： 一緒に立ち上げるスタッフがいなかったんで、「一緒に手伝いますよ」って。元々半田でやったら、刈谷で立ち上げようと思ってたし、別々でやるよりは「一緒にやりましょう」って。

田中： 方向性としては同じだったりしますもんね。

篠田： そうそうそう。

田中： 必要な時につながるご縁ってありますね。

篠田： ありますね。で、その頃に昌宏さんと。

田中： それはどういったきっかけで？

篠田： んとね、もうひとつ絡んでる人がいて（笑）

田中： うん。

篠田： くるくる立ち上げに欠かせない人がいて。今事務所はフラワービルをお借りしてやってるんだけど、そこのオーナーさんとのつながりで。

田中： 今から10年前っていったら、神谷さんは市議員になってらっしゃるね。

篠田： なってる。今4期目だから、その時2期目かな。

田中： 神谷さんも障害を持ったお子さんのお母さまから、「施設を作って下さるって聞いたんですけど」って言われて、言った覚えはないけど、それに応えるためにいろいろ勉強されたりとか。

篠田： で、『族議員』ってあるじゃないですか。昌宏さんは、刈谷で初の福祉政策に明るい族議員（笑）

田中： あはははは。後ろには福祉が。

篠田： 福祉の事を知ってる議員さんっていなかったし、勉強してくれる議員さんも中々いない。その当時若手だったし、いろいろ吸収していただける力があつた。いろいろ助けてもらいました。

元々立ち上げた時、こういうことやりますって行政に出した時に「刈谷市はいらないから。やっても無駄ですから。刈谷は福祉をちゃんとやっていますから、いいですよ」って。

田中： ふうん。

篠田： 当初ね。たしかに福祉予算は、しっかりついてるんですよ。ハード面に対してのものには予算がついてる。

田中： 予算がついてる＝やってる……。

篠田： そうそうそう。建物とか。刈谷市は恵まれている方だと思う。しかし地域福祉を担う人材、ソフト面が必要なんだと。それが逆にハングリー精神に（笑）

田中： 「ほんとにわかってんのか？」……みたいな（笑）

篠田： そうそうそう（笑）

田中： 実際、箱作っても、実際にやる人がいなければ機能しないですよ。

篠田： うんうん。刈谷市もそうなんだけど、日本の国レベルとしても、これだけ障害者の福祉がバーッと広がるとは思ってなかった。当時予算を立てたものに追加予算をしないと追いつかないぐらい、ホームヘルプというものが急激に広がった。それだけ隠れたニーズがあった。

ま、その当時そうだったけど、だんだん制度が自立支援法に、制度から法律に変わってきた。法律としてちゃんと障害者の方の地域生活を整備する。やっとそういう歯車がかみ合ってきた。行政がちゃんと制度設計して、それに対してNPOなどの民間がそれを運営していく。

田中： なんでもそうだと思うんですけど、適材適所ってあって。行政が箱ものを整えるんだったら、それを動かす仕組みとかは、実際にそこで働いている現場をわかってる人じゃないと、動かさないんじゃないかって思います。

…… つづく ^^

◆障害者が働ける場所を広げていきたい

篠田： そうですね。今自立支援法になって、NPO法人だけじゃなくて株式会社とかも参入できる。今はどちらかというと、就労面。障害者がもっと働く場を、雇用先となる行政機関、障害者を雇ってくれる企業さんを増やしていく。

田中： 障害者枠って、ありますね。

篠田： そうそうそう。企業の規模に応じて雇わないといけないんです。それがだんだんハードルが上がって来てる。障害者を雇用しないといけなくなった。

田中： 企業側のハードルが上がった？

篠田： そうそう。会社の規模に応じて雇わないといけない人数が決まっていて、それに達していないとペナルティがある。逆に満たしていれば、障害者雇用の環境を整えるために、期間はあるんだけど、プラスのインセンティブが幾らか入ってくる。雇用するのにバリアフリーにしたりとかね、必要経費が逆にもらえる。それが、常用労働者300人規模以下から、平成27年度は200人規模以下も対象になる。

田中： じゃあ、今までは規模の大きい企業が対応してたけど、これからは中小企業も対象に。

篠田： そう。で、障害者の方で今まで作業所にしか行かれなかったけど。その中でも働けるっていう人はたくさんいて。でも、適性に合わせた訓練トレーニングを積んできてないんで、今でも作業所へ行くと、全然軽度の障害だけど40～50歳ぐらいになると働くことを思わなくなっちゃう。

田中： それは、どうして？

篠田： 働きたいって気持ちが湧いてこない。ていうか、働かないといけない条件ってあるじゃない。自分の生活のためとか。でもそういう人たちは、それまで親元において小遣いもらいながら暮らしてきて、一般的にはお金に困ってない。

国の方としては、自立支援法に変わって、作業所に入るといものから就労移行支援というサービスを新しく作って、2年間の内に就職しましょうって、例えると専門学校みたいなサービスで。うちもそれをやってる。そのつながりで青年部にも入って。

知的障害の方は明らかに経験不足があって……。学生時代にアルバイトしたりとかさ、ちょっと

ずつ社会経験を広げていくじゃない。でも知的障害の子はそういうのがないまま、高校卒業したら就職といった選択しかなく、物欲だったり、生活に対する欲求が特にない感じで。

田中： そういう世界も知らないだろうし。

篠田： そう。知らないからね。そういった経験を学校卒業して2年間の内に、本人さんの働く意欲を養って、それを家族が後押しする。学校卒業して就職出来なかった子達がうちから卒業して就職していく。さっき言ったホームヘルプが始まって、民間会社が参入したことで、創意工夫して働く場面も広がって。そういう流れになって来てる。

田中： 切り開いてる感じがしますね。

篠田： うん。福祉サービスっていうのは国の税金で成り立ってて、必要な人は受ける権利はあると思うけど。うちとしてはね、結構、就労移行は、働けるとか、働く可能性がある人は、そういう環境を整えてあげる方が。

昔から作業所をやってるところはサービスが変わっただけで施設内で作業してるだけなんだけど、うちの取り組みとしては、実習先を企業さんとかにお願いして、外でお仕事をさせてもらって。文化ホールの掃除を毎日させてもらったりとか、刈谷市のホールやスタジアムの椅子拭きとか。清掃会社と協力してやらせてもらったり。刈谷に昔からある地元の服屋さんをお願いして、東浦のユニクロのバックヤードでお仕事体験させてもらったり。飲食店でお皿洗いをやらせてもらったとか。本人が外で働いてみて、どう感じながら体験したか……。

田中： やって見ないとわからないことっていっぱいあるし。

篠田： そうだね。それで少しずつわかってくる。

田中： この間、ダウン症の人で、病院でシーツ交換や洗濯の仕事をされてるっていうのをテレビでやってて。早くは出来なかつたりするけど、患者さんにも優しくて、仕事もとても丁寧で、もう10年以上続けられてるって言ってました。その方に向いた仕事で、環境を整えれば、働ける場ってあるんだろうなって思いました。

篠田： うん。

田中： 周りの方もすごく自然に接してて、受け入れてて、調和が取れてて、いいなあって。

篠田： その関わってる人も。ぼくの体験談じゃないけど、特別じゃないんだよね。その障害者

の方を理解したり、言葉がわかってくれば、誰もが普通に接していけるようになると思うんだよね。企業の方は、知らないから怖がる。理解をしてもらって、環境を整えていくのはぼくらの仕事で。

就労支援で初めて就職を出した子がいて、就職先は、企業さんの食堂。法律が変わって障害のある方をもっと雇わないといけないという話がきて、企業さんは困っていてね。

田中： うん。

篠田： 自閉症で知的障害があって、仕事としては食品のパレットみたいなのを洗う。それを15段に積んで置いとかないといけないんだけど、15が数えられない。それで線を引いて「ここまでいったら、15段」とやる。

田中： わー。

篠田： そういった、ちょっとした工夫。数が数えられないと就職が出来ないんじゃなくて。働けるために、工場長さんとかと相談しながらアイデア出しあって。あれはすごくおもしろかったね（笑）

田中： おもしろいねー。

篠田： おもしろい。

田中： それって、障害者の方の雇用に関わらず、一般の企業でもあることだよな。作業効率上げるための改善とか。やり方にこだわらず、「目的が達成できるやり方考えよ」的な。それで知恵を出しあう。

篠田： そうそう。あと、菌が入らないように自動扉があるんだけど、その自動扉が従業員さんに当たっちゃうっていう事が過去にあって、その子が入ると危ないだろうって。

田中： ああ。

篠田： で、止まれのところにラインを引いて。

田中： うん。

篠田： その線を引いた事によって、他の人たちも気をつけるようになって、事故が減ったっ

て（笑）

田中： いいねえ（笑）

篠田： その子が就職して、役に立ってる。人の為になってるって、すごくよろこびになったりする。

田中： ほんと！ 人間って、必要に迫られると知恵が出せるんだよね。

篠田： そうそうそう。

田中： でも、自分に置き換えないと出てこないというか。その会社の方も、その方をどう活かして行こうかって。自分の方に取り込めたから、方法が出てきたんだらうなって。それがとてもいい作用をしてる。

篠田： そうだね。「あれ取ってきて」とか、曖昧な表現って障害のある方はわかりづらいから改めたり。会社でも、「あれ、それ」が少なくなって、新しく入ってきた人たちにもわかりやすくなってきたという、そういった事例もある。名称で「〇〇を持ってきてください」とか。

田中： 一番弱い人にあわせると、必然的に質って上がるような。子供に優しい社会が、住みやすい社会みたいな。それって道理なんだらうなって。

篠田： うんうん。

田中： 一番動きにくい人にあわせて作ったものって、実は一番安全なんじゃないかなって。

篠田： そうだね。うちの会社もそこが今後のミッションというか。障害者が住みやすい、障害者を通して地域社会が変わって行くようなものを、アプローチ出来る会社になっていきたいなって。立ち上げ当初は、障害者の方の福祉サービスを整えるというところだったけど、障害者の支援を通して地域社会とのコミュニケーションを図ったり、住みやすいところに……というところに考えを変えていきたいなと。

田中： 少し深い部分。今までだと、障害者の方を受け入れてもらう事であったりとか、そういう方がいるということを知っていただくというものから、その方たちが入った状態から、生み出していくものに。こう、ステージが変わって行くんですね。

篠田； うん。

田中： くるくるさんは、クリーニング業務もされてますね。

篠田： クリーニングはね、地域とも接点を作るためにやっていて、それがメインではないです。

田中： 今までお話しいただいたものが主な活動なんですね。

篠田： そうですね。働く部分も話したけど、基本的には3本柱。暮らすところと働く場所と余暇。楽しむ。そこを整えていくのが第一段階。今ホームヘルプ展開と就労支援をしてて、児童の放課後をみる学童もやってて、グループホームもやってる。暮らせる場所っていうか。

田中： うん。広がってく感じで、いいですねえ。

篠田： そうですねえ（笑）

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

篠田さんにもインタビュー後、おつきあいいただきました。

まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

<いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思えますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

.....

つづきは篠田さんのおこたえです ^^

田中： もうちょっと、いい？（笑）

篠田： どうぞ（笑）

田中： 月並みですが、

小さい頃はどんな子供でしたか。さっき虚弱だったっておっしゃってたけど、どうやって元気に。

篠田： サッカーやるようになってから。丈夫になった。

田中： サッカーは何歳ぐらいから？

篠田： 始めたのは小学校1年。小児ぜんそくが治ったのが小学校5年生ぐらいかな。

田中： ぜんそくって、つらいんだよね。

篠田： ぜんそく、つらい。

田中： サッカーやってよかったね（笑）

好きな本を一冊選んでください。

篠田： 好きな本……。

田中： いいよ。別に無理しなくても（笑）

篠田： はははは。大学生の時に、司馬遼太郎の『竜馬が行く』。あれはずっと読んでて。熱くなる。

田中： 私も読んだ。竜馬が好き？

篠田： あの時代背景が。

田中： 激動の時代で。あの人の本、おもしろい。えっと……、

今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか。

篠田： どんな時……大変だったのは、立ち上げた時。

田中： そうなの？ スムーズにいかれたように感じたんですけど。

篠田： 立ち上げた時はね。ただ生活してくまでは、ずーっと大変でした。4年ぐらい前かな。会社も安定してきた。それまでずっとプレイングマネージャーだったんで（笑） ホームヘルプも何回か入らないと収益上がってこないんで。それでも立ち上げ当初は12万ぐらいで。

田中： うん。ガシガシ働いて。

篠田： ガシガシ働いても月12万ぐらいしか。そんな状態が、5年ぐらい続いた。4年ぐらい前から制度が変わって、就労支援で就職者の実績を出して、障害の重度によって補助、報酬が支払われるようになって。うちとしては、そこからだいぶ変わった。4年ぐらい前から、新卒者の定期採用が始まって。来年は11人採用が決まってる。

田中： すごい。

篠田： 7人入って、4人入って。去年は8人入って来年は11人だもんね。

田中： すごいねえ。

その期間をどうやって乗り越えたの？ そのきつい環境を。

篠田： なんだろなあ。将来よくなるっていう（笑）

田中： あははは。

篠田： そういうなんとも言えない、根拠のない自信を持って。

田中： あー、それはこう、揺らがない感じね。

篠田： まあ、揺らいだ時もあったけどね（笑）

田中： うん（笑） でも手放さずに。

篠田： 手放さずに。

田中： 根拠のない自信って、すごく大事な気がする。最終的にはなんとかなる……みたいなものを持ってって、すごい強い気がします。

篠田： うん、うん。

田中： 誰だっけ？ 失敗って、そう思った時が失敗って言ったの。えっと、成功するまでやれば失敗はない……とか。

篠田： あー、なるほど。そうだね。そうしてみると、失敗したっていうふうには思ったことはないね。

田中： 失敗っていうのをどの角度で観るのかっていうものにも関係してくるよね。だから失敗って捉えないうちは、失敗じゃない（笑）

篠田： そうそう。なるほどね。そう思わなければ、出てこない言葉ですよ。

田中： だから、根拠のない自信というの。傍から見れば失敗かもしれないけど、本人が失敗として捉えてなければ。そう捉えないで済む才能かもしれない（笑）

篠田： ぷはっ（笑） そうかも。その辺、前向きです（笑）

田中： いい感じですよ（笑）
3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか。

篠田： 3つ願いが……難しいこと、聞くね（笑）

田中： ふふふ。

篠田： 難しいね。なにかなあ……。

田中： 篠田さん、これまで開拓してきたからさ。すごく切り開いていくことに精いっぱい、見てるところがちょっと近いかもしれない。ちょっと遠い先を見る部分があるといいのかなって感じがした。ちょっと上を見るような視点。

篠田： 願ってというと、不可能なことを願いで叶えてもらえる……みたいな感じがあるじゃないですか（笑）

田中： ふふふ。そうなんだ？

篠田： 仕事に関してはね、叶えられないものじゃないと思ってるから。もっとその先を見通し

たものがあれば。

田中： 篠田さんのエネルギーの向け方って、割に一本道な気がする。だから、向く時は、こっち、今度はこっち、みたいな感じがする。

篠田： うん。それはそうかもしれないな。

田中： この間、獣医さんにインタビューさせていただいたんだけど、すごくエネルギッシュな方で。ロータリークラブの会長されてて、日本ペンクラブでの執筆活動や、日展に陶芸で入選されたり。片手間じゃ出来ないような活動をされてて。

篠田： うん。

田中： 私、エネルギーの向けるチャンネルがいくつもあって、エネルギーが100だとしたらチャンネルの数だけ割られるのかなってイメージがあったから、そのことを先生にお聞きしたら「違うよ。チャンネルが変わると、ひとつのチャンネルに100だよ！」っておっしゃって（笑）

篠田： ふふふ。いろいろなチャンネルがあるけど、みんな100。ひとつひとつに100。

田中： そうそう。チャンネル5個でエネルギー100なら、5等分されて1個辺り20かなとか思って、そう尋ねたんですが……。そうしたら一蹴されちゃって（笑） なんかそれ。衝撃だった（笑）

篠田： ははは。

田中： 篠田さんもチャンネルがいくつもあって。今だとひとつのものに集中して、得てから次……みたいな感じがするんだけど。

篠田： うん。

田中： なんか、欲張ってもいい……みたいなのも。

篠田： やりたいことはあるんだよね。でも向けられてないと思う。

田中： これが終わるまでは、向けない方がいいというようなものもあるような感じもする。獣医さんの話を聞いた時に、そうではないんだなって。そうではないことを選択してもいいんだな

って思ったのね。

篠田： やろうと思えばやれちゃうんだよね。昔、茶道をやってたんですよ。それを再開したいなって思ってたね。3年ぐらい、2年ぐらいかな。こっちに戻ってきてモラトリウム期間もあって。母親のやってる趣味をね、齧ってみようかなって。ニット、手編みや茶道を。茶道、おもしろかったな。

田中： 茶道、いい！

篠田： 半田に行ったり、立ち上げしたりでずーっと離れちゃってるけど。

田中： 手編みとか、単純作業の時って頭が空っぽになる反面、いろいろ思考が動いてる感じがするの。そういう時に思いがけないものが降りてくるといふか。その時間って、すごく大切な気がするの。

篠田： 考えようとか、アイデア出そうとしてると、出てこないよね。

田中： うん、ほんと。

篠田： ぼく、毎朝、呼吸法っていうのをやって。ヨガの先生の知り合いで、インドの人が教えてくれた呼吸法を毎朝やってて。

田中： うんうん。

篠田： 呼吸法の後、ちょっと瞑想状態に入って。日によっていろんなものが出てきたりとか。

田中： 出てくる、出てくる（笑）

篠田： その中から、ぽっとなにか浮かんだりとか。

田中： 日によって自分の状態がわかるというか。すうっと入っていける時と、思考がぐるぐるしちゃって全然入って行けない時と。

篠田： ありますよね（笑） いい時は、気持ちが落ち着いて、ちゃんと見えて、「こういう順序でやれば、焦らなくてもいいんだ」とかね。そういうのは、毎日やってる（笑）

..... つづく ^^

田中： うん（笑） 必要な時間だと思う。

人と会う時、つきあう時、その人のどんなところを見えていますか。

篠田：どこみてるんだらう？（笑） どっちかっていうと、感覚派なんですよ。

田中： うん。

篠田： 感覚的に、「この人のこういうところが好きだな」とか（笑） 探す？.....探してるんだらうなと思うんですけど（笑） こういうところを見てるとかは、ないような気がするんですけど。

田中： 逆に、これがある人には、近寄れないなってみたいなものってあるんですか？

篠田： あんまりないですよね.....基本ない。苦手だなんていう人、いない。

田中： ふふ。なんか動物が嗅ぎ分けるみたいに、本能的に嗅ぎ分けてる部分ってあるんじゃないかなって思ったから。なにか基準があるのかなって聞いてみただけ。

篠田： なんかあるんだらうねえ（笑）当ててください（笑） ふふふっ。

田中： うーん。篠田さんはねえ、きっとねえ、今まで人に出会ってきた中で、あまり手痛い思いをしてないのかもしれない。

篠田： ぷははっ。そうそうそう。それはある（笑） まったくってことはないけど。

田中： うん。なんかそんな感じがする。だから知らない世界なんだらうなって思った（笑）

篠田： あはははは。正解！（笑）

田中： ふふふ。

まったく何の制約もないとしたら、何をしますか。

篠田：すごい質問だね（笑）スリランカ行ってみたくて。

田中： 今、浮かんできたの？

篠田： 浮かんできた（笑） スリランカに行きたい（笑）

田中： あははは。行けばいいじゃん（笑）

篠田： 原因不明の高熱にうなされたことがあって。

田中： 小さい時？

篠田： 2年ぐらい前に。毎月40度超えるぐらいの高熱が1週間ぐらい出ては治まるっていうのが、3か月ぐらい続いて。病院の検査を受けても、原因がわかんないって言われて。

田中： 何歳の時？

篠田： 2年ぐらい前だから、32歳。

田中： じゃあ、厄年とは違うしね。

篠田： その時にスリランカ行きたいなって思ったんだよね（笑） あはははは。

田中： あははは。なんだろう？？ なんでスリランカだったの？（笑）

篠田： スリランカで象に乗ってたんです（笑）

田中： 乗ってたの？

篠田： 乗ってた。

田中： 夢の中で？

篠田： 夢の中で。象使いになってた（笑）

田中： へええ。高熱にうなされながら、象に乗っていたと（笑）

篠田： うなされながら（笑）

田中： じゃあ、行かなきゃ（笑）。

篠田： そう。行かなきゃいけないなって思って（笑） スリランカには、象の孤児院みたいな

ところがあって。親象と死に分かれたり、はぐれた子象を預かって育ててる場所があって。

田中： そこでも育てるんだね（笑）

篠田： はははは。行かんといかんね。行って来いって話だけどね（笑）

田中： うん。行くとね、なにか得られるものがあるかも。

篠田： あるかもね（笑）

田中： 何をしている時が一番楽しいと感じますか。

篠田： 人と話をしてる時が、楽しい。ゴルフに行ったりすると、一日中話をしてて。

田中： 今は？ 楽しい？

篠田： 今？ 楽しいよ（笑）

田中： よかった（笑）

篠田： あんまり、見たことないもんね。完全に、自分自身をね。

田中： ね。

今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか。

篠田： 自分を突き動かしてるものは、将来の自分の成長。ふふふ。なにかわかんないけどね（笑） それが楽しみで。

田中： 楽しみなのね（笑）

今死んでも悔いはありませんか。

篠田： 悔いは、ないなあ。いつ死んでも。

田中： 身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか。

篠田： 一か月かあ。何するんだろう？ なにもしない。普段通り、だけど奥さんとの時間を大切にしたいかな。で、家で日向ぼっこしたい（笑）

田中： ふふふふ。仕事はしないの？

篠田： 仕事はしない（笑）

..... つづく ^^

田中： 世界に向けて演説をしたら、何を一番伝えたいですか。

篠田： 世界かぁ。大きくなったね（笑） なんだろな。言葉に出来ないけど、ぼくこの仕事に就いて思うのは、障害者の方って気持ちが本当に純粹なんだよね。それって誰でも持っているけど、生活して行く中で、いろんなしがらみとかあって、鎧をかぶったりとか、自分を隠したりしてるわけだけど。これが知的障害の方たちにはない。どうとるかはわかんないけど、そういうのを取っ払って（笑）

田中： 「まっぱになろうぜ」って（笑）

篠田： 「まっぱになろうぜ」（笑） みたいな。みんな絶対純粹でいいもの持っているんで。「そなろうぜ」って（笑） あはははは。そういうのが、なんかね、伝えていける手段があるっていいなって。今まで感じてきたこととか。

田中： 重そうな人、いっぱいいるもんね（笑）
生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか。

篠田： そうだなあ。男で！

田中： 男で。それは迷いがない感じで。

篠田： 迷いはない。

田中： ふふふふ。

篠田： 男の、馬鹿らしいところって、いいじゃないですか（笑）

田中： なんか、熱血っぽいところ、あるよね（笑）

篠田： そう（笑） いつまでたってもお馬鹿でいられる。

田中： 世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか。

篠田： 消滅！（笑） なんだろ……??

田中： ふふふふ。

篠田： ない。わかんない（笑）

田中： 今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか。

篠田：ぱっと浮かんだのは、うちの奥さんだけど.....。

田中： いろいろ頭に中に浮かんでる感じね。

篠田： うん。いろいろ浮かんでるね（笑）

田中： おもしろい（笑）

篠田： はははは。奥さんもそうだけど。姉の子供で姪っ子ちゃんが3人いるんで。浮かんだのは、奥さんと姪っ子ちゃん。でも、仕事の事も浮かんできたし（笑）

田中： でもきつと、一番最初に浮かんだものなのかなって気がする。

篠田： そうだね。

田中： 今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったら教えてください。

篠田： 気づいた事（笑）

田中： ふふふ。

篠田： 最後の方の質問で、自分ってそんなに客観的に見てないんだなって、思った。それが出来る人は、聞かれたらすぐに答えられると思うんだけど.....そうばかりでもない？

田中： 結構みんな、悩むよ。

篠田： 悩む？

田中： これみんなに答えてもらってるんだけど。

篠田： ええ。

田中： みんなそれぞれ焦点が違うから。超おもしろいの。それが楽しみで。

篠田： いじわるだね（笑）

田中： いじわる？

篠田： 田中さんが楽しむ頁、みたいな（笑）

田中： ふふ。仕事でもそうだけど、「この人に頼もう」とか「この人じゃなきゃ」ってあって。その部分ってなんだろうって思うとね、その人それぞれの考え方とか、生き方とかが根底にあって、それが醸し出されるものなのかなって。

篠田： うんうん。

田中： その部分がすごく大きい気がしてて。だからそれをあぶり出すっていうのはね、すごくおもしろいことじゃない？（笑）

篠田： ぶはははは。

田中： そうじゃなきゃ、やる意味がない（笑） 単に仕事の紹介、羅列なら普通に調べればいいと思うし。こういう人が、こういう仕事してる、こういう働き方をしてるっていう部分が見える方が絶対におもしろいと思っていて。そういったのを紹介していきたいなあって。人間が一番おもしろい。

篠田： うん。さっき話してて思い出したけど、子供の頃さ、少年サッカースクールに行ってたんだけど。

田中： うん。

篠田： そこでね、まったくしゃべれなかったの。

田中： あら、そう。

篠田： 場面かな？ その場面に行くとまったくしゃべれない。その辺もあって、障害者福祉っていうものに段々のめり込んでいったのもあるのかなって。

田中： あー。

篠田： まったくしゃべれなくても、しゃべりたい。言葉が口から出てこない。

田中： うん。

篠田： みんな友達で仲間はずれとかはなかったんだけど、ほとんどしゃべってない。しゃべりたいのに全然言葉が出てこなくて。

田中： うん。

篠田： ほとんどしゃべれなくて、試合とかでもコミュニケーションがとれなくて。それを味わってた。サッカースクールと学校は違ってて。学校だとしゃべれてた。

田中： うん。パッと見で無関係に思えることでも、丁寧にひも解いていくと細い糸でつながってる部分ってあるような気がするんだよね。

篠田： うん。

田中： いろんな要素が絡み合っ、どこにつながっているのが見えなくなる。そういったことをほぐしていく必要があるというか。

篠田： うん。

田中： そういったことが見えるようになると、違うんだろな、とか。ふふふ。今日はどうもありがとうございました！

篠田： ありがとうございました。

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< ace-support@samba.ocn.ne.jp >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト*ペディア 21 < 篠田佳宗 氏 >

<http://p.booklog.jp/book/87467>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/87467>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/87467>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ